



出会いさやがす、ときめく

日本野鳥の会 滋賀 最年少のバードウォッチャー 井上 万智さん

野洲川周辺で会える野鳥マップを制作中

井上 万智さんは小学3年生。2年生の冬ごろに、日本野鳥の会 滋賀に入会しました。定期的に開かれる支部のバードウォッチング(観察会)だけでなく、学校の登校中、放課後も観察、毎週末も双眼鏡とカメラ、野鳥図鑑を持って出かけるほどの野鳥好きです。

昨年、夏休みの自由研究「わたしの町の野鳥調べ」では、野洲川や田んぼ、自然の多い中洲でウォッチした野鳥図鑑とマップ(春夏秋冬)を制作。学生科学賞展(春夏編)に出品され、見事に県知事賞(最優秀賞)を獲得しました。

学区が主催したバードウォッチングとサイクリングを楽しむイベントでは、中洲小学校の校長先生にすすめられて同行し、

です。守山の周辺で見られる一番好きな野鳥はジョウビタキ。尾羽を上下に振るしぐさがとてもかわいい、と万智さん。

時間さえあればバードウォッチングに出かける万智さんに付き添っているうちに、お母さんも影響を受けて野鳥ファンになりました。おかげで9歳の誕生日には、念願だった野鳥を撮影するための超望遠カメラをプレゼントしてもらったそうです。

万智さんの携帯する野鳥図鑑は「日本の鳥300」です。今はそのうちの80種類くらいに出会えたといいます。目標は100種類まで増やすことです。

参加した市民にバードウォッチングのアドバイスをしたり、自作マップを縮小した資料を活用して野鳥の名前を教えたりしていました。今は野鳥マップの秋冬編の制作を目指しているそうです。

じっくり観察するウォッチ 野鳥の魅力を発見できる

万智さんは、もともと動物や生き物が好きでした。特にペンギンが大好きだったそうです。バードウォッチングに興味を持ったのは、長浜市の野鳥センターでオオワシのおばあちゃんを見た時。その後、バードウォッチングに参加して、すっかり野鳥の虜(とら)になってしまったとか。

野鳥というと、山や森で見られないように思われがちですが、身近にいるスズメやカラス、ハトなども、よく観察していると、意外な姿やしぐさを見せてくれます。珍鳥に会えるの

鳥を発見すると、参加者同士が声を掛け合ったり、種類を教え合ったり、皆でバードウォッチングを楽しみます。観察会の最後は「鳥合わせ」。その日出会えた野鳥の情報を共有します。

撮影の上手な人や博識な大人たちに見守られながら、万智さんは、これからも大好きな野鳥観察を続けていこうと決めています。そして「将来の夢は鳥類の研究者。それから、かわいい鳥グッズを作りたいです。家の車にも「バードウォッチャーが乗ってます」というシールが貼ってあります」と、少し照れくさそうに話しながら、目を輝かせて話していました。



森を歩きながらバードウォッチング



観察会に参加した日本野鳥の会 滋賀の皆さん



1月の観察会に参加した井上万智さんと、この日出会って撮影した野鳥(びわこ地球市民の森)



ジョウビタキ



アオジ



ベニマシコ



コガモ



万智さんが制作した野鳥図鑑とマップ

日本野鳥の会 滋賀
事務局 森田 尚さん(水保町)

野鳥ファンといっても、珍鳥マニアや井上さんのような調査研究を好む人など楽しみ方はさまざまです。バードウォッチングには、豊かな自然の中を歩いて健康的なこと、野鳥に出会うときめき、愛らしいしぐさに癒やされること、野鳥を通して自然と環境保全への意識が高まることなど、多くの魅力があります。

若いバードウォッチャーの存在は「金の卵」、その活躍はとてもうれしいもの。井上さんの将来も楽しみです。

もつれしいですが、それ以上に行動やしぐさをじっくり調査・観察するウォッチが万智さんの好みだそうです。

日本野鳥の会 滋賀 最年少の井上 万智さん(幸津川町)が昨年夏休みに制作した「わたしの町の野鳥調べ」は、学生科学賞展で最優秀賞を受賞しました。

現在は、観察会で、家族で、バードウォッチングを楽しみながら、続編の野鳥マップ(秋冬編)を制作中です。